その３：職業奉仕の発展の歴史

＜ロータリーの原点（ロータリー道徳律）＞

ロータリーでは、よく「原点に還る」という言葉が使われます。では、この「原点」とは何を指すのでしょうか？皆様どの様に考えておられますか？

ご承知のように、ロータリーは最初、**ポール・ハリス**の孤独感から、**「実業家のクラブ」**を作るという概念が生まれました。

そして 1905 年、**ポール・ハリスと３人の創始者**は、その考えを**「親睦」**にまとめ、**「相互扶助」**を持ち込みました。

その後、**「世のため人のため」**（1906）を訴えた**ドナルド・カーター**、

ロータリーの建設者といわれる**チェスレー・ペリー**、

”He profits most who serves best.” （1911）を提唱し**「ロータリーの奉仕理念」**を確立した**アーサー・フレデリック・シェルドン**、

”Service, not self”（1911）を提唱したミネアポリス RC と**ベンジャミン・フランク・コリンズ**、

「実力の涵養と人格の形成がロータリーの目的である」（1913）と講演した**Dr.アレン・アルバード**、

1915 年の**「事業のすべての分野に適用すべきロータリー道徳律」**に携わった**ロバート・ハント、J. R. パーキンス、ジェームズ・ピンカム、ジョン・ナトソン、**

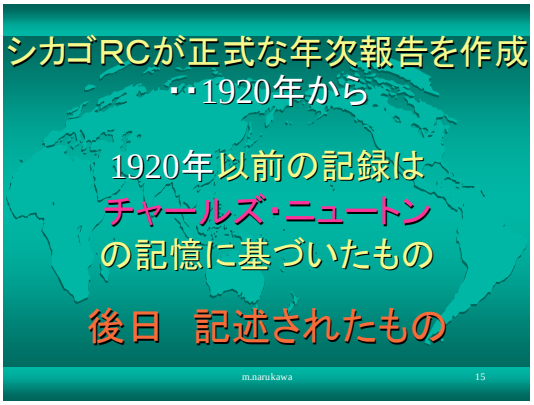
「ロータリー通解」（1916）をまとめた**ガイ・ガンディカー**、

「実践論―原理認識のための行動」の**フランク・マルホランド**、

1923 年の**「決議 23－34」**を書き上げた**ウィリアム・メニア Jr. とポール・ウェストバーグ、**

このような人々によって、ロータリーは進展し進化してまいりました。

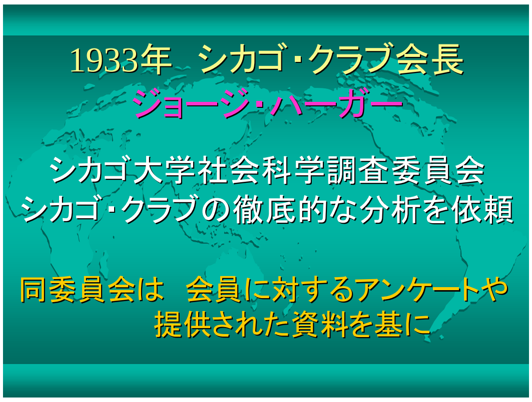
皆様は、どこに「ロータリーの原点」を置かれますか？ある人は「親睦」に、ある人は「奉仕理念」に、又ある人は「ロータリー通解」に、或いは、「決議 23－34」に、原点を置かれると思います。職業奉仕の手本である「事業のすべての分野に適用すべきロータリー道徳律」も、ロータリーの原点の一つではないでしょうか。



この道徳律は、1915 年から 40 年間にわたって、ロータリアンの道標として、多くの言語に翻訳され、世界中のロータリアンの事業所の壁に掛けられ、**職業奉仕の手本**となったのであります。

ところで、シカゴ RC の初期の記録は、ほとんど残っていません。1934 年「Rotary ?」と 1966 年「Golden Strand」のみで、1920 年以前の記録はチャールズ・ニュートンの記憶に基づいたものです。

2004 年「A Century of Service（奉仕の一世紀）」が RI から発行されました。



・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

これから、職業奉仕の発展の歴史を振り返ってみたいと思います。

＜シカゴ＞

シカゴは、1840 年から 1910 年までの 70 年の間に、人口は 4,470 人から 2,185,282 人までと爆発的に増加しました。特に、1890 年から 1900 年までの 10 年間に、55%も人口が増加したのです。

1893 年にシカゴで万国博覧会が開かれていたころ、まだ法学部の学生だったポール・ハリスは、シカゴで 1 週間過ごしました。騒がしく落ち着きが無く、無法都市となったシカゴに、ポールは、「不可解な魅力」を感じました。

そして、**1896 年**に、ポールは金もうけのためでなく、**生きがいを求めて**、荒っぽく闘争的で、矛盾に満ちたシカゴに戻ってきたのです。シカゴはこのように大発展を遂げていたので、若い弁護士が開業するうってつけの場所でした。ですから、ポールはシカゴに戻り**法律事務所を開いた**のです。

＜一つのアイディアの発展＞

青年弁護士ポール・ハリスは、バーモント州にいたときと同じような温かい交友を楽しむため、親しい友人をつくりたいと何よりも望みました。「**友情とビジネスを混ぜ合わせたら、友情もビジネスも増えるのではないか**」と、一つのアイディアを抱きました。**そこで、ポール・ハリスは、3 人の友人とともに、ロータリークラブを設立したのです。**

ポールのこのアイディアは、当時としてはどう考えても異例といえるものでした。なぜなら、当時は、シカゴでも、どこでも、企業家は富と勢力の追求において、政府から何の制約も受けていなかったのです。当時の**実業家は**、「商売は商売だ」、「買い手こそ注意しろ」、「競争には情無用」、「世間が何だ」と**声高に述べました**。利益が最優先され、野放しの資本主義でした。

言い換えると、当時は、同業者は敵とみなされ、同業者の１人を倒産に追い込めば、大喜びし、気がとがめるなどということはなかったのです。

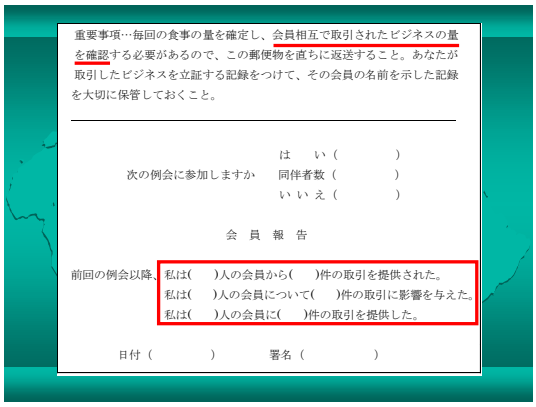
そこで、小クラブを創設したのですが、これが後の 23.000 以上となるロータリークラブの発端で、同種の奉仕クラブも相次いで誕生したのです。

＜ロータリーの誕生＞

1905 年、ポール・ハリスは、知己と友情を十分に強調した**「一業種一人で、親睦を深める会」**として**ロータリークラブ**を作りました。

1906 年、初めて定款・細則ができました。**第１条**は「**会員の業務上の利益を振興すること**」、**第２条**は「**社交クラブとして会員の親睦その他望ましい事項を振興すること**」。即ち、**相互扶助と親睦**、この２項目だけで、奉仕という考えは入っていませんでした。

この頃のシカゴ・クラブには**統計委員**というのがおりまして、会員同士の取引状況がきちんと記録されています。スライドのように、例会の出欠と会員報告ということで、「私は何人の会員から何件の取引を提供された。何人の会員に何件の取引を提供した。」という報告が 3～4 年続いておりました。相互扶助の主義が非常に強かったということがわかります。


重要事項…毎回の食事の量を確定し、会員相互で取引されたビジネスの量を確認する必要があるので、この郵便物を直ちに返送すること。あなたが取引したビジネスを立証する記録をつけて、その会員の名前を示した記録を大切に保管しておくこと。

次の例会に参加しますか　は　い（　　）　同伴者数（　　）　いいえ（　　）

会　員　報　告

前回の例会以降、私は(　　)人の会員から(　　)件の取引を提供された。
私は(　　)人の会員について(　　)件の取引に影響を与えた。
私は(　　)人の会員に(　　)件の取引を提供した。

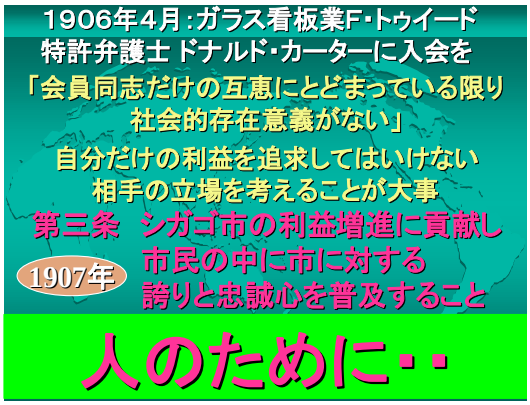
日付（　　）　署名（　　）

＜奉仕理念の誕生＞

そこに、1906 年に定款・細則ができて間なしに、会員のＦ・トゥイードさんが弁理士の**ドナルド・カーター**さんに入会を勧めました。しかし、カーターさんはその新しい定款・細則を見まして、「私はこういうクラブには入りたくありません」と言いました。「なぜですか」と聞いたら、「このような会員同士だけの利益にとどまっている限り社会的存在意義がない」とカーターさんは言いました。トゥイードさんはそれを聞きまして、「なるほど、言われてみればそうだな。それではあなたも

ロータリーに入って一緒にそういう方向に運動しませんか」と言いました。

自分だけの利益を追求してはいけない。相手の立場を考えることが大事だということをポール・ハリスに言いました。ポール・ハリスの偉いところは、こういうよい意見を取り入れたことです。そして定款の**第３条**に「**シカゴ市の利益増進に貢献し、市民の中に市にたいする誇りと忠誠心を普及すること**」という一文を加えられ、初めて**「人のために」**という考え方が生まれました。まだ「奉仕」という概念にまでは至っていませんでしたが、ここで**「人のために尽くす」**思想が含まれました。



そして、世間で助けを必要としている人に、救済の手を差し伸べる、即ち弱者救済をすれば、これが世のため人のためになるのだろうと考えました。

例えば、農業の傍ら、宣教活動をやっている牧師が、馬が死んでしまって宣教活動が出来なくなっている。それをシカゴのクラブの連中が聞きまして、皆でお金を集めて馬を買い与える。いわゆる金銭的な団体奉仕です。或いは、障害を持つ新聞売りの少年に、衣服を与えたり、いろんな金銭的、即物的な奉仕、要するに弱者救済をやっておりました。

1907 年ポール・ハリス会長は「今、シカゴ市で何が必要か？」と会員に意見を求め、市と交渉して、公衆便所を寄付しました。（ロータリー社会奉仕の第一号と言われる。）

他方ポールは、当時同業者間の親睦の難しさを痛感していました。そこで、1 業種 1 人と会員を制限したのです。これが、ロータリーの職業分類制度の始まりで、このため、競争相手とならない友人の輪をつくりだすのに成功しました。当然、商売上の利益が得たくて入会した人もいましたが、クラブ内の温かい雰囲気に包まれ、親睦を見いだしました。

ポール・ハリスは、『**ロータリーへの私の道**』の中で、次のように書いています。

「彼らは、優しい心と友好的な精神からにじみ出るあらゆる方法で、お互いを助け合いました。主として、ビジネスの中でお互いを助け、成功するように援助し合うことに努力が傾けられました。そのほうがよいとされる場合には、お互いに顧客となり、必要な場合にはお互いに相手のためになるように力を貸したり、助言を与えたりしたのです」。相互扶助です。

「相手のためになるように力を貸す」ということは、初期のロータリアンは、ロータリアン同士は勿論、**「ロータリアン以外」の友人や知人にも、自分の同僚ロータリアンに対して仕事上の援助（取引）をするように頼む**ことでありました。「助言」もなされました。

国際ロータリーの初代事務総長で、32 年間もその地位にあり、ロータリーを今日のようにした最大の功績者のひとりである**チェスリーR．ペリー**は、1955 年、米国イリノイ州ラサールで開かれたロータリーの職業

関係会議で次のように述べました。

「初期のロータリアンたちが、みんな天使のようであったということはありません。是正すべき点が、いくつかはあったと思われます。とにかく、品物の質も仕事ぶりも最高とはいえず、仲間のロータリアンでさえも、その顧客になるのを尻込みするような会員もいたのです。」

そして、ポールは、**世のため人のため**の事を説いたのでありますが、シカゴのクラブの連中は、依然として親睦（相互扶助）一辺倒だったのであります。やがてクラブが**親睦派**と**奉仕派**に割れていくのでありますが、この辺のことは割愛させていただきます。

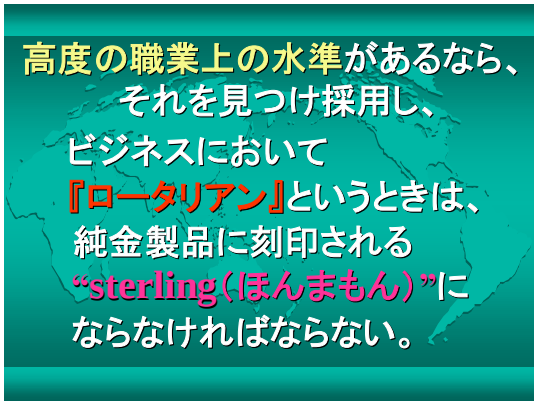
＜職業奉仕の誕生＞

1908 年、アーサー・フレデリック・シェルドンがシカゴ・クラブに入会してきました。そして、**「世のため人のため」**という事を**サービス**という言葉で集約したのであります。これがロータリーの世界に「サービス」という言葉が入ってきた最初だったのであります。

シカゴの会員たちは、これまでやってきた「金を出す事だけが奉仕なのか、サービスなのか」という疑問が出てまいりました。「弱者救済は本来行政が為すべき事であり、それならロータリアンでなくてもできるではないか。ロータリーでなければできない奉仕があるはずだ。一体それは何だろうか。」

ロータリーの奉仕理念を完成した“**アーサー・フレデリック・シェルドン**”は、**「職業は、社会に奉仕する手段である」**と、他のロータリアンを説得しました。

我々は職業人だから、職業を通じて、世のため人のために働くべきだ」と考えたのです。



そして、**「高度の職業上の水準があるなら、これを見つけ、採用し、ビジネスにおいて『ロータリアン』というときは、純金製品に刻印される “sterling（ほんまもん）”にならなければならない。」**ということが分かってきたのであります。

これは**重大な認識**でした。この時、ロータリーは初めて**倫理的商取引（現在の職業奉仕）**の重要性に注目したのです。これは、最初のクラブ、シカゴ・ロータリークラブから始まりました。

このように生まれた「倫理的商取引」が、ロータリーの**「職業奉仕理念」**として発展し、文章として、まとめられていくのは、1908 年から 1915 年にかけてのことであります。

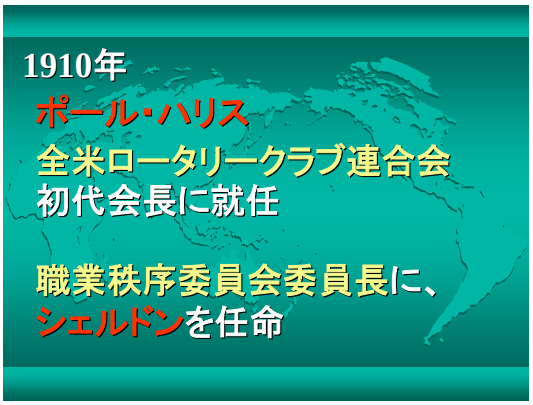
シカゴ・クラブは、**「事業経営方法委員会**（Business Methods Committee）**」**を設置し、シェルドンが委員長となりました。**「ロータリアンひとりひとりの商取引の方法は、同僚ロータリアンだけでなく一般の人々の信頼も得なければならない」**という見解を普及することを目的としました。

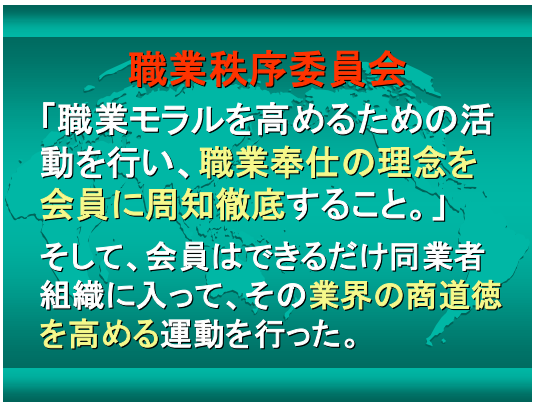
サンフランシスコ、シアトル、各地にロータリークラブが結成されると、これらのクラブも、商取引の方

法に、関心を持ちました。

ポール・ハリスは、1910 年、全米ロータリークラブ連合会の初代会長に就任し、ロータリーの新しい理想を追求するために設けられた**職業秩序委員会**の委員長に、**シェルドン**を任命しました。

この職業秩序委員会は、**職業モラルを高めるための活動を行い、職業奉仕の理念を会員に周知徹底すること**でありました。そして、会員はできるだけ同業者組織に入って、その**業界の商道徳を高める**運動を盛んに行いました。





同年、シカゴで開催された最初の全米ロータリークラブ連合会大会で、大会委員長は、出席者にこう語りました：**「私たちは、世界において進んで自己の任務を果たし、公衆道徳心を高めたいと願い、職業において高度の道徳的水準を守りたいと思っています」**。

そして、5 か条の綱領が採択されました。これには、

４）「進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること」（商道徳を高める）の一項がありましたが、

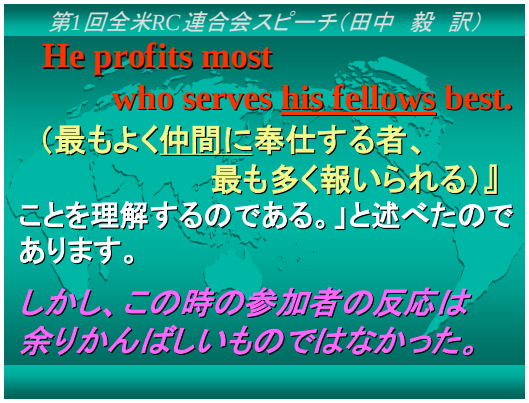
５）「加入するロータリークラブの個々の会員の商業上の利益を増進すること」（相互扶助・互恵）という項目は残っています。

大会の閉会時に、シェルドンは、職業倫理の重要性を強調し、腐敗や不正は排除しなければならないことを明らかにし、次のように語りました。

「19 世紀における商習慣の特筆すべき点は競争である。人間は長い旅路を漂いながら進化し成長していくものだが、特に今世紀も間近に控えた 19 世紀の 4 分の 3 を迎えた頃には、毎日毎日が食うか食われるかという動物の本能をむきだしにした状態が最高潮に達した。**商売の原則は、「買手の自己責任」すなわち、買手が用心することであった。**

20 世紀における人類は、あらゆる面で知性の円熟期に近づきつつある。人類は、無知という精神的な夜の帳を抜けて、知識の薄明を迎えようとしている。

20 世紀の商習慣の特徴は**協力**することであり、知恵の光に満たされた人間は、**他人に利益をもたらすことこそが正しい処理法**だということを理解し、**経営学が人間に対するサービス学である**ことを理解し、**同僚に対して最も奉仕した者が最も報われる** He profits most who serves his fellows best ことを理解するのである。」（田中毅 PDG 訳）



しかし、この時の参加者の反応はあまりはかばかしいものではなかったそうです。

翌 1911 年のオレゴン州ポートランドで開催された全国大会で、シェルドンは、**サービスに関する基調演説**をすることになりましたが、所用で急遽イギリスへ旅立つことになり、彼の原稿をチェスレー・ペリーが代読することになりました。

彼の原稿には、ロータリアン同士の取引を推し進めることについてはまったく言及されておらず、新しい概念としての、サービスの様式と質を論じる言葉が述べられていました。

1911年私の宣言（田中　毅　訳）

彼の原稿には、ロータリアン同士の取引を推し進めることについては全く言及されておらず、新しい概念としてのサービスの様式と質を論じる言葉が述べられていました。

経営学は、
"He profits most who serves best."
に基づくサービス学である。

「経営学は、"He profits most who serves best." に基づくサービス学である。

いかなる団体の成功も、サービスに従事した人々の成功の集積である。広い意味で、すべての人はセールスマンである。それぞれの人は、それがサービスか商品かにかかわらず、売るべきもの持っている。 **商売上における人生の成功は、末永く利益をもたらす顧客を確保する技術を持って、事業を営むことによって決まる。**

血の通った事業を築いていくのは、利益を得るために、品物を買うように人々を説得する原動力、すなわち販売術である。**血の通った販売術の源となる心こそサービスであり**、最終的に、**買手と売手の双方に利益と満足を与える原動力**である。

広い意味における人生の成功は、幸運とか機会というものではなく、心理的、道徳的、物質的な自然の法則によって支配されている。

これらの自然の法則のすべてを調和させる活動こそ、最高の成功を意味する。自然の法則の一部を犯すことは、単なる部分的な成功を意味し、全てを犯すことは、失敗を意味する。

宇宙を認識するということは、一般的な良識を開発したり、人類の連帯を正しく認識したり、物事の同一性や人間の兄弟愛を現実化することであり、ビジネスの場においてもそれ以外の場においても**「最もよく奉仕する者, 最も多く報いられる」**という事実を現実化することなのである。」と述べました。（田中毅 PDG 訳）

この時、
ミネアポリスRC会長
ベンジャミン・フランク・コリンズ
自分のクラブで採用した原則、
"Service, not Self"（無私の奉仕）
2640地区2010－11年度
ガバナー月信1月号*（別紙配布参照）*

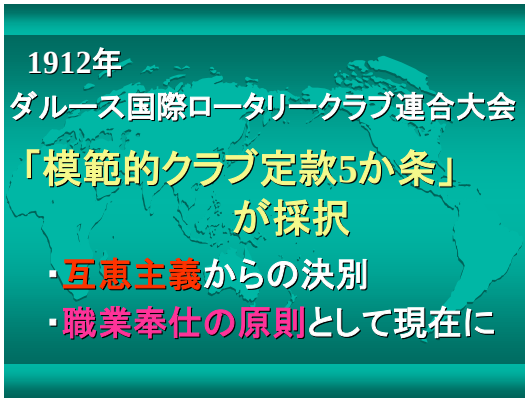
この時、ミネアポリス・ロータリー・クラブの会長、**B. フランク・コリンズ**が、自分のクラブで採用した原則、"Service, not Self" （無私の奉仕） によってクラブを組織するとよいと述べました。*（別紙①参照）*

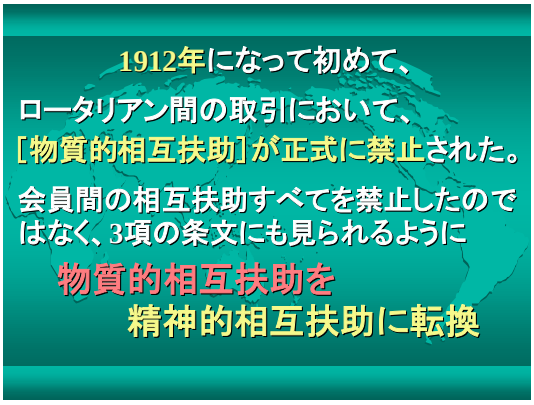
この標語は、
1920年頃に少し修正されて、
"Service Above Self"
（超我の奉仕）
（公式の標語となったのは1950年の
デトロイト国際大会）

この標語は、1920 年頃に少し修正されて、**「超我の奉仕 Service Above Self」**となりました。（公式の標語となったのは 1950 年のデトロイト国際大会）。

そして、1912 年にダルースで開催された国際ロータリークラブ連合大会で、**模範的クラブ定款 5 か条**が採択されました。これが互恵主義からの決別を告げる新しい綱領の基礎となり、そのまま**職業奉仕の原則**として現在に引き継がれているのです。

1. すべての合法的職業の価値に対する認識を深め、社会に対する奉仕の機会を与えるものとして会員の職業を神聖化すること
2. 職業上の高き道徳的基準を奨励すること
3. 意見や商業取引上の方法を互に話し合い各会員の能率を増進すること
4. 奉仕の機会及び成功への道として知り合いを深めるための知識を普及すること
5. 社会福祉の問題に各会員の関心を促し、かつ市発展のため他の人々と協力すること





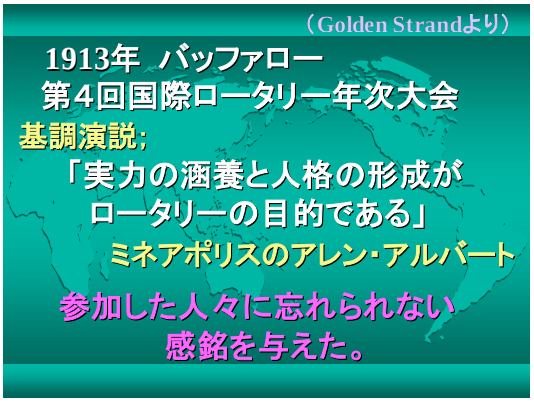
このように、1912 年になって初めて、ロータリアン間の取引において、[物質的相互扶助] が正式に禁止されましたが、これは、会員間の相互扶助すべてを禁止したのではなく、3 項の条文にも見られますように、**物質的**相互扶助を**精神的**相互扶助に**転換**したのです。

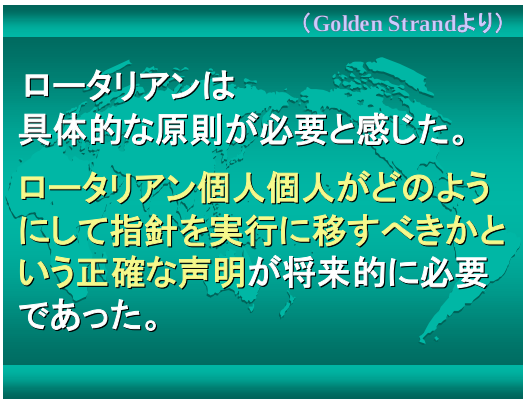
＜アレン・アルバートの演説＞

1913 年にバッファローで開催された、第 4 回国際ロータリー年次大会の基調演説はミネアポリスの**アレン・アルバート**によって行われ、参加した人々に忘れられない感銘を与えました。

「ロータリアンに対して、不自然な拘束をもってロータリアン同士の取引を制限しようという試みは、これまでの利己主義を更に増長する。**個人の利己主義はそれだけでも惨めであるが、組織化された利己主義は、ロータリーにおけるあらゆる衝動の中で、最も不愉快なことである。**能力の向上と人格の強化こそ、ロータリーが直ちにやらねばならない意義であり目的である。」

ロータリアンはアルバート博士の述べた原則を認めたものの、仰々しい概論ではなく、**具体的な原則が必要**と感じた。ロータリアン個人個人がどのようにして指針を実行に移すべきかという正確な声明が将来的に必要であった。





＜道徳律の作成＞

そこで、会議が終わるまでに、委員会は、特別な道徳律を作って、１年後にヒューストンで開催される次の大会に提出するために準備することを命じられた。

（Golden Strandより）

＜道徳律の作成＞

委員会は、特別な道徳律を作って、１年後にヒューストンで開催される次の大会に提出するために準備することを命じられた。

任命されたアイオワ州シュー市のロバート・ハント委員長は、広範囲にわたる実業家のための道徳律として具体的に示すべき事項について、ロータリアンからの提案を要請したところ、数百にものぼる返事が帰ってきた。委員長は文書を作製する作業の大部分を、シュー市の牧師でありそのクラブの会員である**パーキンス**に依頼した。

＜大会特別列車での作業＞

パーキンスは二～三人の身近な友人を呼び集めて行動を開始した。彼らは文書の大きな山の中から、約5,000 語にものぼる最初の草稿を書いた。

大会会場のヒューストン行きの列車に乗り込む時に、彼らはこの原稿を持ち込んだ。彼らの乗っているアイオワからの客車は、カンザスシティで、シカゴからの大会特別列車に連結された。彼らは、偶然、**ハーバート・アングスター**という名前のシカゴ・ロータリークラブの会員と会った。アングスターは言った。

「やあ、君たち。私にいい考えがあるよ。私の後についてサロンに来ないか。君たちの手伝いができるよ。」

彼らは感謝し、その申し出を受け入れ、コートを脱ぎ、ネクタイを外し、袖をまくり上げて、テーブルの周りに座って、一心不乱に長い原稿を書き直しはじめた。

彼らは使用済みの封筒の裏やノート・パッドやスクラップ・ペーパーに至るまで、見つけることができるものなら何にでも書いた。誰かが列車に備え付けの７枚の新しい便箋を、清書用に探してきた。燦然と輝くプロローグは、ジェームズ・ピンカムが基本的な考えを策定したけれども、グループの一員である**ジョン・ナトソン**の偉大なる労作であった。最終章である第 11 章は、彼がより流暢であるという理由から、彼の母国語であるドイツ語で作られた。

彼らが最終原稿を握りしめて、ハーバートに大声で読んで聞かせた時には、大会特別列車はヒューストン郊外のレールに沿って「ガッタン、ゴットン」と走っていた。

ハーバートは思慮深く、意見を述べた。

「素晴らしい出来映えです。私はこれが気に入ったし、シカゴの私のクラブも、すべての大会代議員も同じだと思います。あなたがたは誇るべき素晴らしい仕事をした。」

（Golden Strandより）

その1914年の代議員会は、提案されたロータリー道徳律を完璧なものと見なした。
それは、歴史に残る要約によって5,000語から約500語までに縮められていたのである。

その 1914 年の代議員会は、提案されたロータリー道徳律を完璧なものと見なした。それは、歴史に残る要約によって、5,000 語から約 500 語までに縮められていたのである。

＜公式な道徳律の誕生＞

ヒューストンにおいて代議員たちは、すべてのロータリアンにこの短い道徳律を送って、研究するように命じた。

そして、１年後の 1915 年サンフランシスコで開催された第 6 回国際ロータリークラブ連合会年次大会で、**「事業のすべての分野に適用すべきロータリー道徳律」**が採択され、その全文が 1916 年の［ロータリー通解］に掲載されたのであります。*（別紙②参照）*

＜公式な道徳律の誕生＞
そして1年後の1915年、サンフランシスコ
第6回国際ロータリークラブ連合会年次大会
「事業のすべての分野に
適用すべきロータリー道徳律」
が採択され、
その全文が1916年の
［ロータリー通解］に掲載

この「ロータリー道徳律」は、ロータリアンの職業上の倫理観を成文化したものであります。この道徳律は、ロータリアンの道標として、多くの言語に翻訳されて、世界中のロータリアンの事業所の壁に掛けられることになりますが、後日、その内容の厳しさと、表現方法が宗教的であるとする批判が続出しました。（Golden Strand より）

この「ロータリー道徳律」は
ロータリアンの職業上の
倫理観を成文化したもの

＜批判＞

特に**第 6 条**の「若しそれに自信が持てなければ、採算上厳しい限度を越えても、それを上廻るサービスを心掛けよう。」を厳密に解釈すれば、販売した商品については永久に責任を取らなくてはならず、現実の問題として実行不可能という意見がだされました。

また、**第 11 条**の「黄金律」を、ロータリーの倫理基準に据えたことに対する反発も強く、政治と宗教は取り込まないとするロータリーの原則に反するのみではなく、逆にロータリー運動が宗教活動と混同され、無用の誤解を招くという非難でした。

＜道徳律の削除＞

ＲＩもその位置づけに苦慮したあげく、1927 年に改定委員会を設置して検討を重ねた結果、1931 年に宣伝したり頒布することが中止され、ついに 1951 年にロータリーのあらゆる文書から姿を消すことになります。

但し、職業奉仕の拠りどころとして道徳律の存在を否定することには、ためらいがあったらしく、国際ロータリー細則第 16 条に［道徳律］という言葉がその後も残されていましたが、遂に、1980 年の改正で完全に削除され今日に至っています。

＜道徳律の削除＞
RIもその位置づけに苦慮したあげく
1927年に改定委員会を設置して
検討を重ねた結果、
1931年に宣伝したり頒布することが
中止され、
ついに1951年にロータリーのあらゆ
る文書から姿を消すことになる。

このように、ロータリーにおける「職業奉仕」は、その根幹が出来上がるまで、ロータリー誕生から 10 年を要しております。

この間に、ロータリーは大西洋を越え、イングランドとアイルランドで 1911 年にクラブが設立されました。英国のロータリアンも北米の多くのロータリアンも、商取引の方法（business methods）という言葉を飽き足りなく思っていました。

1920 年代には、**公正な商慣行**が多くの同業組合で採択されました。アメリカ・レストラン協会や英国の自動車販売業団体などがその一つです。ロータリーの影響で、**会員は自己の職業を社会に奉仕する機会とみなす**ようになりました。

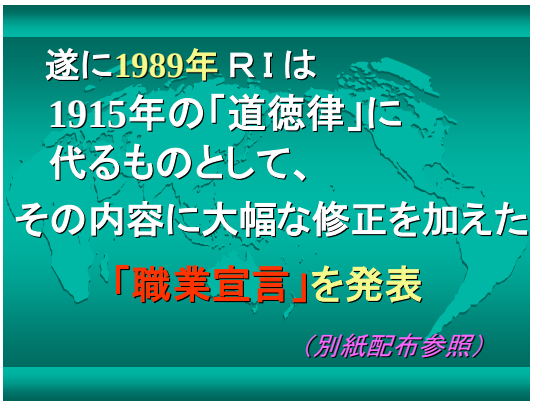
ですが、職業を通じての奉仕プログラムに盛り込まれたすべてを数語で表現することは容易なことではなかったのです。クラブ管理組織の改革によって、四大奉仕のひとつとして**職業奉仕部門が正式に発足したのは 1927 年**であります。

ロータリーは、ようやく、**奉仕の四分野**（field、のちに部門 Avenue）という考えに到達しました。**クラブ、地域社会、国際的分野**、それに、**business、profession または occupation という分野**です。後に、**"Vocation"**という言葉なら、何もかも含まれるのではないかという意見があり、1927 年オステンド（ベルギー）国際大会以降、**「職業奉仕」**（Vocational Service）という用語が「商取引の方法」に替わって、公式のものとなりました。

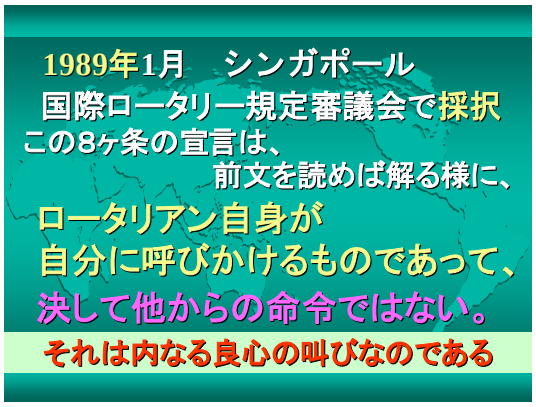
1930 年代の大恐慌期に、第 2 奉仕部門は重大な発展期を迎えました。**ハーバート J. テイラー**が**四つのテスト**を創案したのです。商取引の公正さを測る尺度で、以後、多くのロータリアンがこのテストを活用してきました。*（別紙③参照）*

1940 年代初期には、RI 理事会は**「職業による奉仕」**という標語が、クラブやロータリアンのあいだに普及していることに気付き、以後、この標語は、ロータリーの奉仕の理想を誓約するという形で、公式に使われてきました。

この誓約は、ロータリアンに対して、**「自分の職業を、物質的所得の手段であるばかりでなく、社会に対する奉仕を実行する機会であると考え、不当な便宜や、特権の濫用や、信頼の裏切りから得られる利益や栄誉は断じて受けない」**よう要請するものでした。



こうした経緯から「ロータリー道徳律」は姿を消したものの、その内容は職業奉仕の真髄に迫るものとして復活を望む声も多く、遂に 1989 年、ＲＩは、これに代るものとして、その内容に大幅な修正を加えた「職業宣言」を発表しております。（別紙④参照）



ロータリーの「職業宣言」は、1915 年の「道徳律」（倫理訓）に代るものとして、1989 年 1 月シンガポールに於ける国際ロータリー規定審議会に於いて採択されたものである。

この八ヶ条の宣言は、前文を読めば解る様に、**ロータリアン自身が自分に呼びかけるものであって、決して他からの命令ではない。それは内なる良心の叫びなのである。**

またこの「職業宣言」では、たったこれだけの文章の中で、Vocation、 Occupation 、Business、Profession と４種類の用語が使い分けられている。

従来の邦訳ではそういう使い分けに対する配慮が無かったが、これを機会に訳語を統一することとし、ロータリー用語としては、

Vocation＝職業
Occupation＝業務
Business＝事業
Profession＝専門職務
（前後の文章により単に職務）

とする、という案が採用されたのです。

以上が、職業奉仕の発展の歴史であり、ロータリーは、この職業倫理と共に発展したのであります。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・